

## 来日した英国人鉄道技師の経歴と貢献 —技能形成、技術習得、および技術伝播

The Careers and Contributions of the UK“Oyatoi”Railway Engineers,  
from the Viewpoint of the Technological Discipline, Practice, and Diffusion.

林田 治男 (HAYASHIDA Haruo)

明治初期に、24名の英国人技師（土木学会・機械学会加入者）が鉄道部門の「お雇い外国人」として明治初期に来日した。技能形成、技術習得、および技術伝播という観点から、彼らの経歴と貢献を研究している。

2016年度は8月に米国を訪れ、主として Rutgers 大学（New Jersey 州 New Brunswick 市）で Griffis Collection を閲覧した。残念ながら英国人技師の資料はあまりなかったが、明治初期の写真などもあり、当時の社会経済的状况を知る便に接することができた。また New York 市では米国人研究者と面談し、鉄道導入の経緯などについて議論することができた。

11月に、スリランカを訪問し Colombo 市にある公文書館や図書館で、英国人技師の足跡を追った。機械技師1名が来日前に当地で Locomotive Superintendent（日本では「汽車監察方」と呼んでいた）として従事していたことを確認できた。他方当時英国から東洋への中継地であった当地の英字新聞の乗船記録から、彼らの行動を辿ろうとしたが、日程的余裕もなくほとんど進展しなかった。

2月にオランダと英国に行った。来日前にオランダ東インド会社で鉄道建設に従事している可能性がある技師1名がいるので、The Hague 市の国立公文書館その資料を求めたが明白な裏付けは得られなかった。London では国立公文書館と大英図書館で東インド鉄道会社の資料を探した。公文書館では、1860年代の雑誌を中心に、資料検索～請求～撮影を行った。大英図書館での調査は日程的に余裕がなく、途中で切り上げざるをえなかった。

他方、9月青山学院大学で開催された「鉄道史学会」で「技師と大学—来日した英国人鉄道技師にみる19世紀中葉の大学教育」という報告を行った。来日した鉄道技師のうち4名が大学で学んだが（正確には2名が卒業し、2名は中退だった）、この報告では、彼らが学んだ大学（3大学、4学部）のカリキュラム・試験内容、設備、教授陣、および学費などを詳しく紹介し19世紀中葉の英国の技師養成課程としての大学教育に光を当てた。その上で、これらの大学教育が彼らの日本での功績に、あるいはまた日本の技師養成機関の設立・運営に影響を与えたのかを探った。結論としては、4名とも在日期间が短く、来日した鉄道技師を通じて、英国の大学教育が日本の高等教育に与えたルートはなかった。ただし初代技師長 Edmund Morel が来日直後に、技師養成のための高等教育機関設立を建議したことは特筆すべきである。